

# 令和3年度 道徳科実践・研究計画

部 員	○小室真紀 佐々木恵 進藤由貴子 猿田千穂子 鎌田雅子 佐々木絵理子
-----	------------------------------------

研究テーマ  
**道徳的価値に向き合い、より深く、より豊かに考え、  
 自己の生き方を見つめ直す子どもを育む学び**

## 1 研究テーマについて

人生は、選択・決定の連続である。自分の決断に迷いが生じたり悩んだりしたとき、これまで積み重ねてきた心の経験が決断のよりどころとなっていく。「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）で耕された、自分事として納得する道徳的価値観を見いだそうとする心の力は、選択・決定のよりどころになるとともに、生きていく上で自己を見つめ直す心のみちしるべとなっていくと信じている。

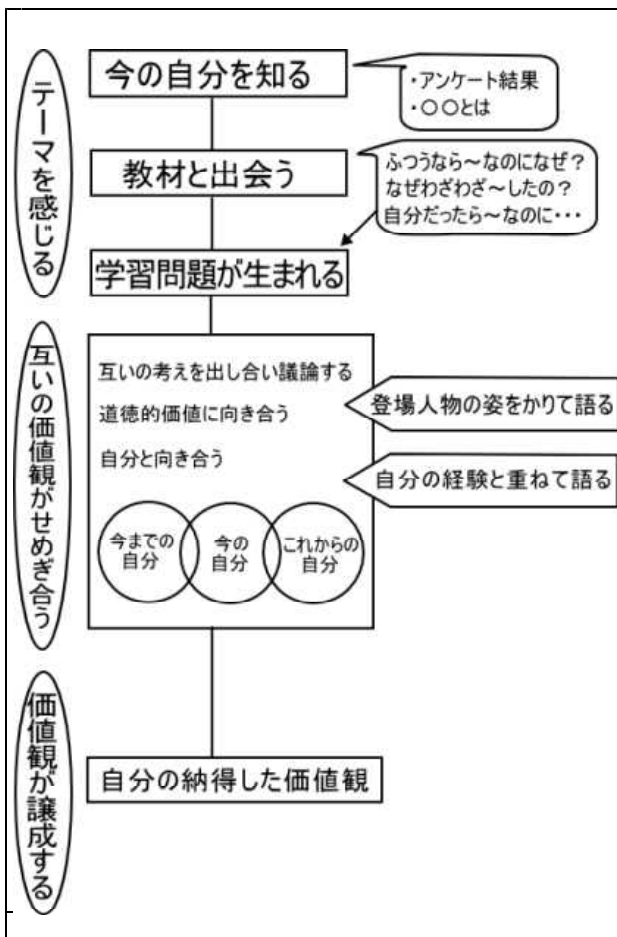
道徳科では、道徳的価値に真正面から向き合い、仲間の考えにふれる中で自身の考えを多面的・多角的に吟味し、自己の価値観を生み出し確立していく姿が、「自律した学習者」の姿と捉えている。

「より深く、より豊かに考える」学びは、道徳的価値を自分事として考え「主体的」に学ぶ子どもの姿とともに、仲間と自分の思考を往復させ「対話的」に学ぶ姿の両面が支えている。どちらが欠けても成り立たない。両者を融合させる根底には、「省察」する自分が流れている。

道徳科での「省察」の場はすべてにある。現時点での子どもの問題意識を学習問題の源としてきたことが、子ども一人一人が自分事として「省察」する姿に通じてきた。また、道徳的価値観が多様に内包されるテーマ性のある学習問題を授業の核にすることによって、子どもの意識が選択・決定を動かし、「省察」を色濃くしてきた。自分事の視点として「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」を意識した授業構築が課題でもある。

道徳科の時間は様々な方向の関わりから感性が刺激を受ける。その刺激の核となっていくのが仲間との議論の場であることは、明確である。議論する中で、葛藤が生まれ、批判が生まれ、感動が呼び起こされる。自分の考え方・感じ方がゆさぶられ、自身の道徳的価値観がせめぎ合っていく。最終的に自分で決断するのが道徳の時間であるからこそ、自分を見つめ、自分の生き方を見つめていく姿に納得した道徳的価値観が根付いていく道徳科の時間を積み重ねていきたい。

道徳科における「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のように捉える。



図：道徳科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

- ・教材の登場人物への共感的追求から広げ、その行為やその背景にある思いについて語り合う姿
- ・仲間の考えにふれる中で自身の考えを、多面的・多角的に吟味し、気づきを生み出しながら、自己の生き方を見つめ直す姿
- ・「対話」を通して道徳的価値を温め、自己の生き方の中で実現していこうという思いをもつ姿

## 2 研究の重点〈○は具体的な取り組みの例〉

- (1) 多面的・多角的に自己の生き方を見つめることができる授業づくりの手立て**
- 議論を通して、自身の考え方を多面的・多角的に見つめることにつながるような議論のテーマを工夫する。
  - 教材を通して、道徳的価値の理解を広げたり深めたりする中で、自分事として納得する道徳的価値観を見いだすことにつながる働きかけの工夫をする。
- (2) 子ども一人一人が道徳的価値と向き合い、自分事として「省察」する授業構築の工夫**
- 教材を通して出会った道徳的価値と自分との関わりを意識した導入を工夫する。
  - 道徳的価値を窓口に、「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」を視点とした「省察」の場を設定する。

## 3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	附属小学校公開研究協議会(6/18) 提案授業 (小室：6 B) ・ P T A 授業参観での授業提示	・ 実践・研修の計画作成
2 学期	・ P T A 授業参観での授業提示 ・ 研究リーフレット執筆	・ 実践・研究についての情報交換 ・ 授業を通しての重点事項の検討
3 学期	・ 部内研修会 ・ 道徳部会	・ 授業を通して、研究の方向性の確認 ・ 年間指導計画の作成 ・ 次年度の実践・研究計画の検討

通年：年間指導計画等の加除・修正